

令和5年度 京都府立東舞鶴高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） （実施段階）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
重点1 学びに向かう力と主体的に進路を選択・実現できる態度の育成の推進	(1) 学習習慣の定着と学力向上のための、生徒を主語とする取組（生徒が何を学んだかに注目）の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各授業での振り返りを定着・充実させ、生徒自身が学力向上を自覚でき、自己肯定感を高められるようにする。</li> <li>○到達度テストの結果分析と連動した課題等を活用し、学習習慣の定着と学びの個別最適化を図る。</li> <li>○進学・就職に向けたモチベーションを高める補講等を実施する。</li> <li>○模擬試験・検定等の受験を積極的に促し、事後指導を確実に進め進学等の希望を育てる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度より導入した授業支援アプリ（ロイロノート）を活用し、各教科が試行錯誤を繰り返しながら授業の振り返りの定着と充実を目指した結果、生徒自身の学力向上に繋がっている。また、学年部においては、定期考査前にクラスを越えた学習会を実施する等、学習環境の充実を図ったことは生徒が前向きに学習に取り組む姿勢や自己肯定感を高めることに繋がっている。</li> <li>○到達度テストの結果を分析し課題配信を実施したが、生徒の学習習慣の定着には繋がらなかった。さらに細かな分析をし、課題の難易度等を各生徒にあったものにする必要がある。</li> <li>○京都府中小企業家同友会や舞鶴商工会議所と連携した取組を実施し、生徒自身の職業観の醸成に繋げることができた。今後さらに連携を深める必要がある。</li> <li>○模擬試験・検定試験の受験を積極的に促したが各学年とも受験者数には課題が残る。学年部と進路指導部が連携した取組の中で、模擬試験の効果について丁寧な説明が必要である。</li> </ul>
	(2) 探究的な学びの充実及び実社会と結びついたキャリア教育の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総合的な探究の時間（マイガクⅠⅡ）では、探究活動の基礎を身につけ、主体的なテーマを設定しプレゼンテーション等実践的な活動を実施することで、生徒自身が進路選択の幅を広げられるようにする。</li> <li>○生徒自身が自分の適性を見極め、自分にあった進路選択の目標を設定できる取組を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2年生の総合的な探究の時間（マイガクⅡ）の取組はグループによる活動を行い、舞鶴市や企業と連携した様々な取組をすることで、探究的な深い学びを実践することができた。この学びが、生徒の進路選択に活かすことに期待している。また、今年度の取組を検証し、生徒が主体的に活動する充実した探究活動となるようにしていきたい。</li> </ul>
重点2 学校DX化の推進	(1) BYOD時代にふさわしい教科等指導の充実及び環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校DX推進チームを主体とし、公開授業等とおして教員間で指導方法等を共有し授業改善につなげる。</li> <li>○教育活動に必要な機材及び環境をさらに充実させる。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校DX推進チームを立ち上げたが、チームとして主体的な取組を実施することができなかった。各教科内での授業内容の共有はできているが、他教科の授業の工夫や取組等を気軽に共有できる環境づくりが必要である。</li> <li>○地元企業からの配信用機材の寄贈により一定の環境が整った。今後、より積極的な利用をとおして教育活動の充実につなげていきたい。</li> </ul>
	(2) ICTを活用した学校運営の改善及び働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員間・対生徒間でのTeams活用を情報セキュリティ等に留意しながら、さらに充実させ業務の効率化を図る。</li> <li>○授業支援アプリ（ロイロノート等）・デジタル教材を積極的に活用し授業の効率化を図る。</li> <li>○校内会議のデジタル化を推進するとともに、始業前の時間を有効に活用する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○次年度以降のMDMの設定変更及び廃止にともない、生徒だけでなく教職員においても情報セキュリティ対策が急務である。</li> <li>○Teamsを活用した業務の効率化、校内会議のデジタル化については、各教職員の理解を得ながら進める必要がある。</li> <li>○各教科とも授業支援アプリ（ロイロノート）の試験導入により、指導の充実をはかることができた。業務の効率化及び生徒の学習意欲の向上に確実に繋がられている。</li> </ul>

令和5年度 京都府立東舞鶴高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） （実施段階）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
重点3 学校の魅力向上とその効果的発信の推進	(1)地域創生の一主体として一歩踏み込んだ取組の実施	○舞鶴市や地域企業・各種学校（近隣中学校、ポリテクカレッジ、YMCA、舞鶴高専等）と連携し、生徒自身が地域の課題を解決したり、魅力を向上させたりする取組を実施する。 ○地域人材を活用し、地域産業や文化に触れさせる取組を実施する。 ○生徒の主権者意識を向上させる取組を実施する。 ○地域活動に参画する生徒数を増加させるための学校からの情報発信を増やす。	A B	○総合的な探究の時間（マイガクⅠⅡ）においての舞鶴市や地域、企業との連携や進路指導部の京都府中小企業家同友会との連携等、生徒自身が地域とのつながりを意識できる取組が多くあった。また、各学年部、各教科（家庭科、地歴公民科、保健体育科）、部活動においても地域の人材を活用した取組及び積極的に地域と繋がる取組を実践しており、次年度以降さらに充実した取組を期待できる。 ○主権者教育においては、第1学年で模擬投票を実施し主権者意識の向上につとめた。今後は学年進行にあわせた内容を精選し実施していきたい。
	(2)学校内外で協働した広報と情報発信の充実	○ホームページ・インスタグラムを活用した情報発信をさらに充実させる。 ○動画配信を積極的に活用し、生徒の努力や成長した姿を魅力的に発信する。 ○中学校教員対象の学校説明会を実施し、志願者の増加につなげる。	B	○担当者を明確にすることにより、ホームページ等での情報発信を積極的に行うことができた。しかし、ホームページ構成上の課題を感じており改善していきたい。 ○前期選抜の方式変更ともなう説明会を丁寧に実施した結果志願者数が微増した。
重点4 積極的な特別支援教育及び生徒指導・教育相談の推進	(1)配慮を要する生徒への個別指導・支援の充実	○教育相談会議・スクリーニング会議をとおして生徒情報の共有を行い、課題を抱える生徒に対する指導・支援体制の早期構築を目指す。 ○合理的配慮の提供について、全教職員が共通認識を持ち支援を要する生徒の指導にあたる。	B B	○支援教員の配置により配慮・支援を要する生徒への支援体制を構築することができた。教育相談会議の定例化により情報共有がスムーズにできているが不登校生徒及び転学・退学する生徒がいる現状があり会議の在り方を含め検討する。 ○合理的配慮に関して年度当初に教職員研修を実施し共通認識を持って指導にあたることができた。また、定期的に「学習サポート教室」を実施し支援を要する生徒の学習サポートを実施している。今後も継続した支援をしていきたい。
	(2)生徒の主体性を育てる取組の充実	○生徒を対象としたリーダー研修を実施する。 ○探究活動やHR活動、学校行事においてグループワークやプレゼンテーションの能力を培い、主体的に学びに向かう姿勢を育てる。 ○キャリアパスポートを活用し、ポートフォリオの確実な作成をとおして自分の在り方、生き方を考えさせる。	B	○生徒指導部が中心となり外部人材を活用したリーダー研修を実施することができた。生徒が主体的に参加しており、次年度以降の活躍に期待している。 ○総合的な探究の時間（マイガクⅡ）での取組において、主体的に学びを深めているグループもあり生徒の主体性は確実に向上している。 ○キャリアパスポートについては十分に活用できていない現状である。今後さらに教職員の共通理解を深め生徒への指導に活かしていきたい。
学校関係者評価委員会による評価	○舞鶴地域の公立高校として、信頼される学校づくりを目指した教育方針を評価するとともに期待している。 ○各教育活動ともに一定の成果をあげており評価している。 ○2年生の「総合的な探究の時間（マイガクⅡ）」は、よい取組ができている。次の学年でも継続して取り組んでほしい。			
次年度に向けた改善の方向性	○授業改善の取組は評価するが、「学習者としての目線」を意識したうえで「個別最適化」の授業に取り組んでほしい。 ○少子化に伴い多くの府立高校で定員割れが起きている。本校の魅力を発信して中学生を引きつける取組は今後も重要である。そのためには、広報動画を第3者に評価してもらうことも必要ではないか。 ○多世代が交流できる活動に取り組むことは地域への効果的なアピールとなるのではないか。			